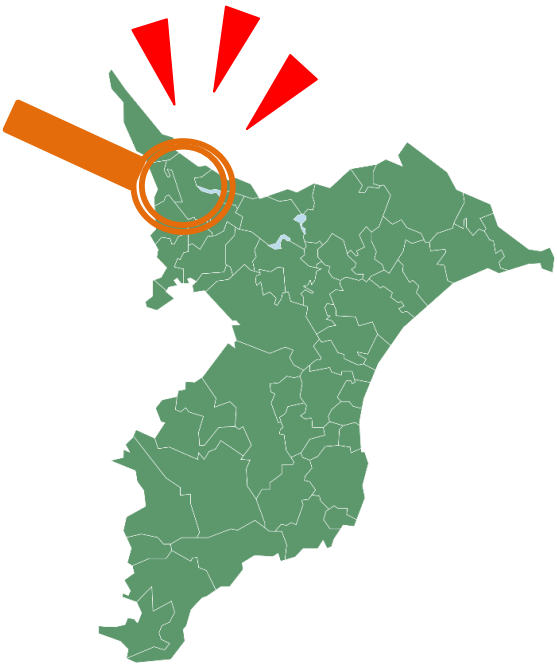
２０２６・10

柏の景気情報

令和8（２０２６）年10月の調査結果



柏　商　工　会　議　所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当）　柏商工会議所 中小企業相談所
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ　：　０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ　：　０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ　：　http://www.kashiwa-cci.or.jp
Ｅ－ｍａｉｌ　：　info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和８年１０月の調査結果のポイント）

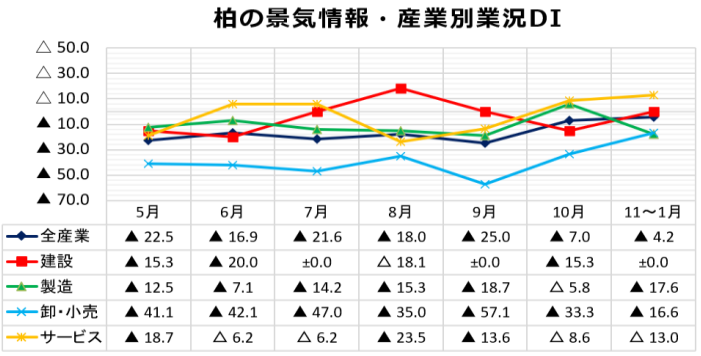
★調査結果のまとめ

回答期間：令和８年10月20日～令和８年11月３日　調査対象：柏市内198事業所及び組合にヒアリング、回答数71

原材料高や価格転嫁難が重荷、金利上昇や買い控えの影響により、苦戦続く

１０月の全産業合計の業況ＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲７．０（前月水準▲２５．０）となりマイナス幅が１８．０ポイント縮小した。

原材料や仕入れ価格の上昇が続く中、十分な価格転嫁ができず収益を圧迫している。さらに金利上昇への警戒感から消費者の買い控えが強まり、恒常的な人手不足も重なって、各業種で先行きへの不透明感が高まっている。



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11～1月
全産業	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 7.0	▲ 4.2
建設	▲ 15.3	▲ 20.0	±0.0	△ 18.1	±0.0	▲ 15.3	±0.0
製造	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 18.7	△ 5.8	▲ 17.6
卸・小売	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 57.1	▲ 33.3	▲ 16.6
サービス	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	▲ 13.6	△ 8.6	△ 13.0

★業種別の動向

前月と比べたＤＩ値の動き　⇗ 改善　⇒ 横ばい　⇘ 悪化

建設業

エネルギー価格等のコスト増は、認められるが、弊社では顕著ではないため、価格転嫁は実施できないが、セキュリティー対策への投資によるコスト増が懸念される。（地質調査・地質コンサルタント）

10月は雨が多く、外注工事の工程の遅れが生じ、他の工事の工期にも影響が及んでいる。金利上昇の影響があると考えられるが、新築住宅に関する問い合わせが減少しているように感じる。建設業全体的に20～30代の若年層からの求人応募が少なくなっている。（総合工事業）

製造業

医薬品容器の新企画が進むなど一部で好調な動きがあるものの、化粧品容器の停滞が重石となり、全体として勢いに乗り切れていない状況です。（プラスチック加工）

今月より材料メーカーから紙の値上げが行われた。来年貼るにも更なる値上げの要請があるがある状況。コスト増に対して多少なりとも転換しているが十分では無い。

今後価格転嫁交渉において取引先との良好な関係性が必要。（印刷業）

卸・小売業

半導体をはじめとする仕入れ価格の急騰（最大前年比3,600%）や納期遅延により、従来の経営戦略の抜本的な見直しが迫られている。現場では見積書の再作成業務が増大する一方、人手不足と従業員の高齢化が深刻化しており、AIを活用した業務自動化の加速が不可欠。合わせて、高まる情報流出リスクに対応するため、社内で個人情報を保有しない安全な運用体制への転換が急務となっている。（書籍・文房具小売業）

10月は天候安定により週末の集客が持ち直し、インフルエンザ需要に支えられたヘルス＆ウェルネスや秋冬物が動く衣料・住居余暇関連が好調な一方、全体としては依然厳しい状況。特に食料品は原価高騰に伴う1点単価の上昇から買い控えが激しく、野菜の高騰やサンマの不漁、安価な鶏肉へのシフトなど節約志向による点数減が顕著で、米や菓子を含め年末年始商戦への影響が強く懸念される。（大型小売店）

サービス業

金利の上昇と資材の高騰や外注費の上昇等の影響で仕入れ単価が上がっている。一般消費者も購買意欲が減少しており、直近2～3年間で販売価格が上がっている影響もあり、財布事情も厳しくなっているように感じる。（不動産管理業）

コーヒーに興味をもっている人が増加している。柏の葉においては飲食店の需要と供給のバランスが取れているように感じる。（バー，キャバレー，ナイトクラブ）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲７．０に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲２０．０で、柏のほうが全国平均と比較して１３．０ポイント上回っている。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。※建設業は、柏の景気・全国平均と比べて、（▲１５．３）同じ数値だった。

柏商工会議所
The Kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調	 好調	 まあまあ	 不振	 極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 7.0	▲ 15.3	5.8	▲ 33.3	8.6
CCI―LOBO	▲ 20.0	▲ 15.3	▲ 18.5	▲ 27.1	▲ 15.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	11.2	▲ 30.7	23.5	5.5	30.4
CCI―LOBO	▲ 3.7	▲ 8.8	3.2	▲ 10.7	0.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 7.0	▲ 23.0	±0.0	▲ 16.6	4.3
CCI―LOBO	▲ 19.3	▲ 20.5	▲ 16.4	▲ 23.3	▲ 19.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 66.1	▲ 61.5	▲ 82.3	▲ 66.6	▲ 56.5
CCI―LOBO	▲ 70.6	▲ 75.0	▲ 73.9	▲ 69.4	▲ 66.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	23.9	53.8	11.7	5.5	30.4
CCI―LOBO	21.5	38.3	16.6	16.6	21.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 7.0	▲ 15.3	▲ 11.7	±0.0	▲ 4.3
CCI―LOBO	▲ 12.6	▲ 6.2	▲ 11.2	▲ 15.8	▲ 15.9

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（10月速報）

調査期間：2026年10月15日～21日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

業況ＤＩは、好天の恩恵も物価高が響きほぼ横ばい
先行きは、慎重な見方が残るも緩やかな回復を見込む

全産業合計の業況ＤＩは、▲20.0（前月比▲0.7ポイント）

製造業・卸売業では、一般消費者向け製品を中心に、物価高を背景とした節約志向の高まりに伴う需要減退が響き、悪化した。一方で、建設業では一部地域や特定業種における堅調な受注がけん引したほか、サービス業でも天候回復に伴う行楽需要の拡大が飲食店の客数増や旅館の高稼働につながり、改善した。

相次ぐ値上げを背景に生活防衛意識が高まる中、日常の嗜好品支出を抑制する一方で、休日の外出やハレの日需要へ優先的に支出するなど、メリハリ消費の傾向がうかがえる。

先行き見通しＤＩは、▲17.7（今月比＋2.3ポイント）

長期化する物価高による消費マインドの低下や、金利上昇・円安に伴うコスト負担の増加、価格転嫁の遅れなどから、先行きには慎重な見方が残る

一方、高水準の賃上げに伴う実質賃金の改善傾向に加え、気温低下による行楽シーズンの本格化や各種イベント需要の拡大への期待感もあり、先行きは緩やかな持ち直し基調が見込まれる。

【建設業】

「札幌や千歳をはじめとする道央圏における受注が好調に推移している。1件当たりの受注規模が大きく、3年先まで案件が埋まっている状況。一方で、深刻な技術者不足を背景に供給能力が追い付かず、新規案件の受注を断っている」（一般工事業）

「地元需要が低迷する中、首都圏で堅調に受注を獲得。滞在費等の適正な価格転嫁により利益率向上を図っていきたい」（土木工事業）

【製造業】

「得意先側での大幅な値上げに伴って買い控えが生じた結果、当社の生産数量が大幅に減少している」（食料品製造業）

「消費者の生活防衛意識が一段と高まる中、当社が扱う高級靴などの嗜好性の強い製品は買い控えの影響を受けている。現在、業界全体としても過去にない規模で需要が減退しており、経営環境は深刻度を増している」（ゴム製品製造業）

【卸売業】

「金属素材の価格が上昇した結果、ガラスや陶器、木、プラスチックといった安価な素材を使用した代替品への需要流出が進んでいる。単なる値上げで終わらせず、消費者に高くても買いたいと思わせる魅力を持った商品をつくる必要がある」（非鉄金属製品卸売業）

「大企業との所得格差による人手不足や後継者不在により、廃業する老舗小売店が相次いでいる。当社も創業100年超の歴史に幕を閉じる」（飲食料品卸売業）

【小売業】

「量販店等の販売価格には地元小売店が絶対に対抗できず、深刻な客離れから廃業が散見されており、地域住民の買い物難民化を招いている」（酒類小売業）

「インバウンドの来店客数は、中国からの減少を韓国の伸長が補う形で、全体として前年並みの水準を維持している。また、各種イベント展開による集客効果が高く、着実な新規顧客の獲得につながっている。先行きも、食品関連の催事を予定しており、来店客数は好調に推移する見込み」（百貨店）

【サービス業】

「猛暑が和らぎ秋の好シーズンに突入したことで、季節食材を盛り込んだ会席料理の予約が順調に推移している。今後も季節感を取り入れたイベント企画を継続し、さらなる集客を図る方針である」（飲食店）

「順調な稼働状況を背景に、導入済みのダイナミックプライシングが有効に機能し、販売単価が高水準で推移している」（旅館）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

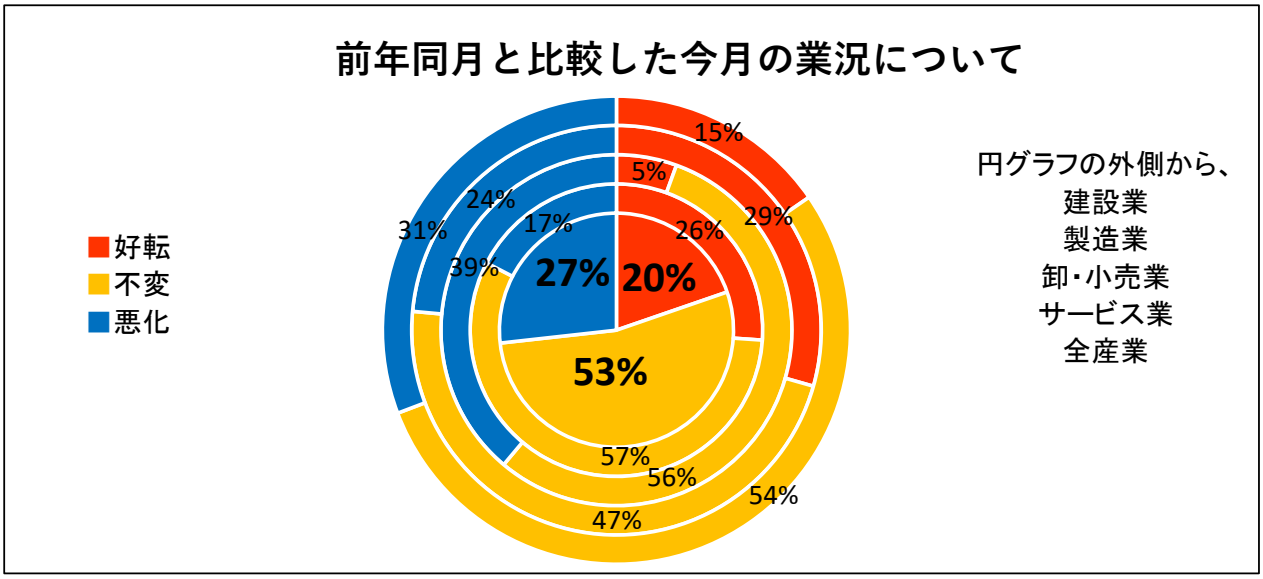
	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
5月	▲ 24.3	▲ 24.8	▲ 22.6	▲ 30.8	▲ 30.7	▲ 18.0
6月	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 20.6	▲ 24.5	▲ 29.2	▲ 17.5
7月	▲ 21.2	▲ 18.2	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 28.6	▲ 19.7
8月	▲ 20.2	▲ 16.0	▲ 20.1	▲ 26.6	▲ 24.0	▲ 17.6
9月	▲ 20.7	▲ 17.4	▲ 14.8	▲ 26.7	▲ 27.7	▲ 20.6
１０月	▲ 20.0	▲ 15.3	▲ 18.5	▲ 28.2	▲ 27.1	▲ 15.5
見通し	▲ 17.7	▲ 14.9	▲ 12.8	▲ 24.4	▲ 22.3	▲ 17.9

令和８年（２０２６年）10月の動向

【業況について】

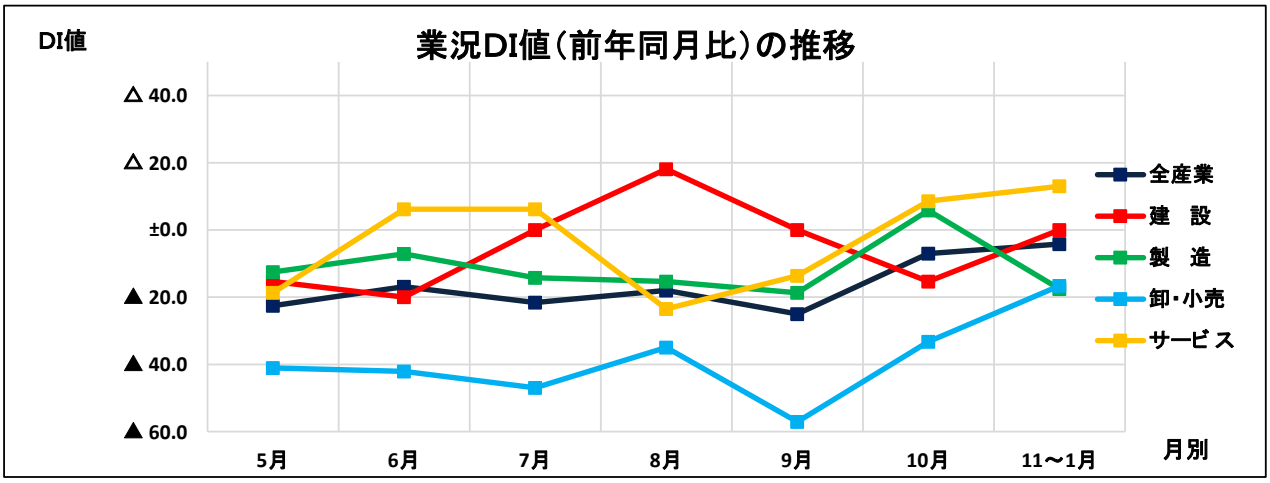
○ 10月の全産業合計のＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲７．０（前月水準▲２５．０）となり、マイナス幅が１８．０ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲４．２（前月水準▲９．７）となり、マイナス幅が５．５ポイント縮小した。



業況ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

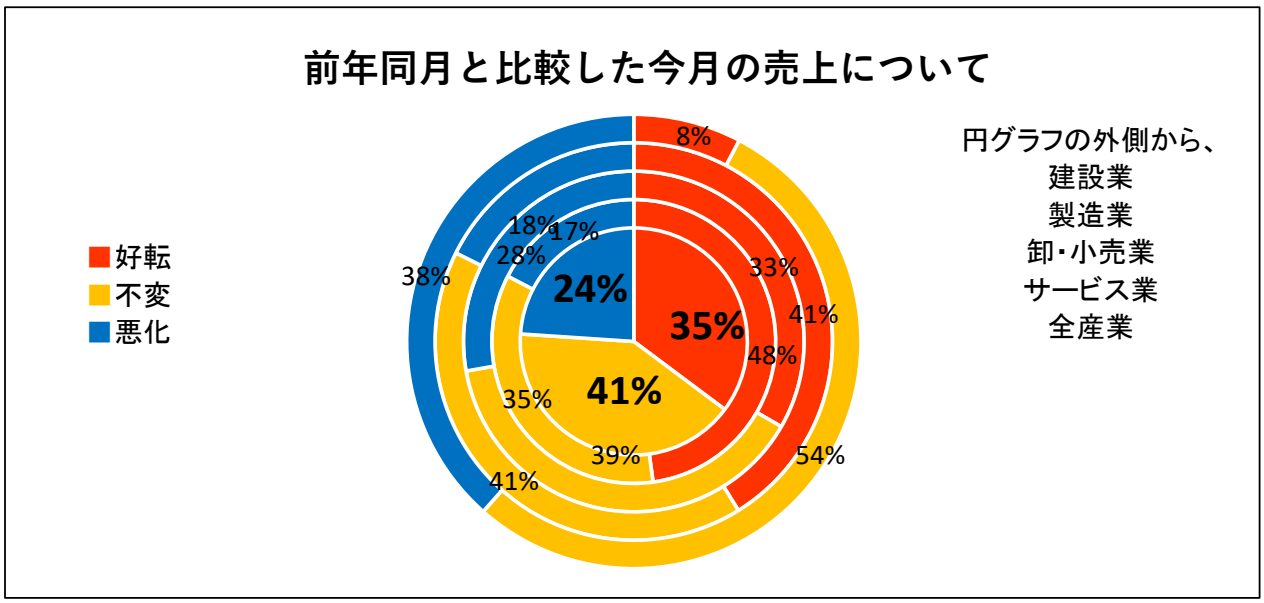
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 7.0	▲ 4.2 （ ▲ 9.7 ）
建　設	▲ 15.3	▲ 20.0	±0.0	△ 18.1	±0.0	▲ 15.3	±0.0 （ △ 23.0 ）
製　造	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 18.7	△ 5.8	▲ 17.6 （ ▲ 18.7 ）
卸・小売	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 57.1	▲ 33.3	▲ 16.6 （ ▲ 28.5 ）
サービス	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	▲ 13.6	△ 8.6	△ 13.0 （ ▲ 4.5 ）



【売上について】

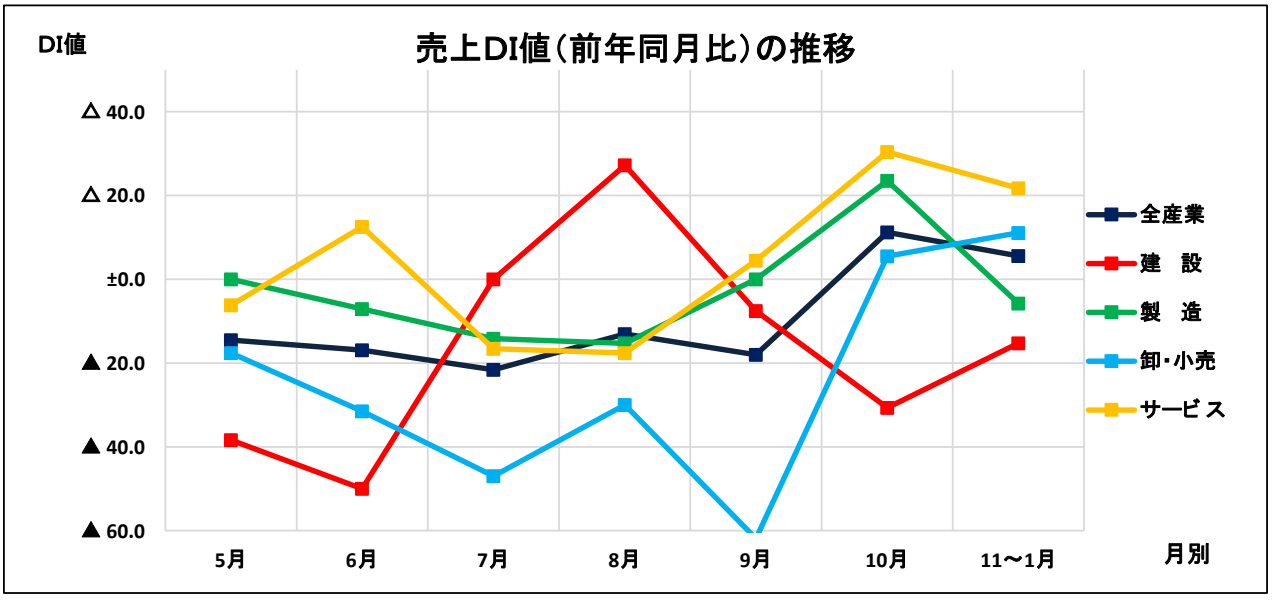
○10月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△１１．２前月水準▲１８．０）となり、プラス幅２９．２ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、△５．６（前月水準±０．０）となり、プラス幅が５．６ポイント拡大した。☒



売上ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「増加」の回答割合ー「減少」の回答割合

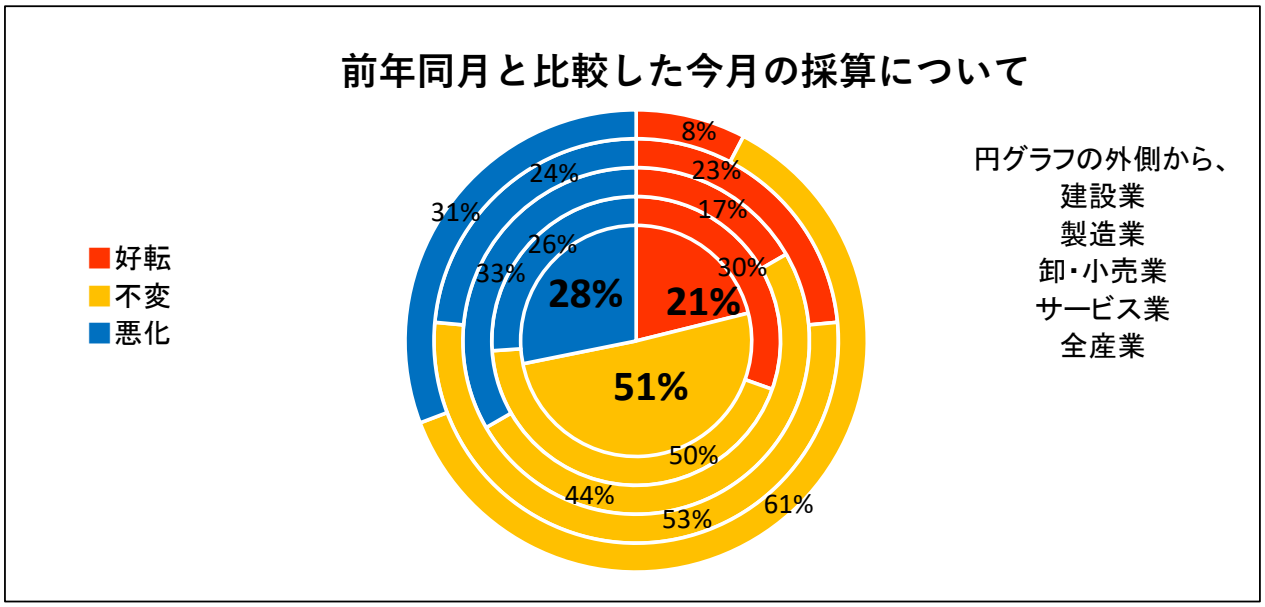
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	▲ 14.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 13.1	▲ 18.0	△ 11.2	△ 5.6 （ ±0.0 ）
建　設	▲ 38.4	▲ 50.0	±0.0	△ 27.2	▲ 7.6	▲ 30.7	▲ 15.3 （ △ 30.7 ）
製　造	±0.0	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	±0.0	△ 23.5	▲ 5.8 （ ▲ 6.2 ）
卸・小売	▲ 17.6	▲ 31.5	▲ 47.0	▲ 30.0	▲ 61.9	△ 5.5	△ 11.1 （ ▲ 23.8 ）
サービス	▲ 6.2	△ 12.5	▲ 16.6	▲ 17.6	△ 4.5	△ 30.4	△ 21.7 （ △ 9.0 ）



【採算について】

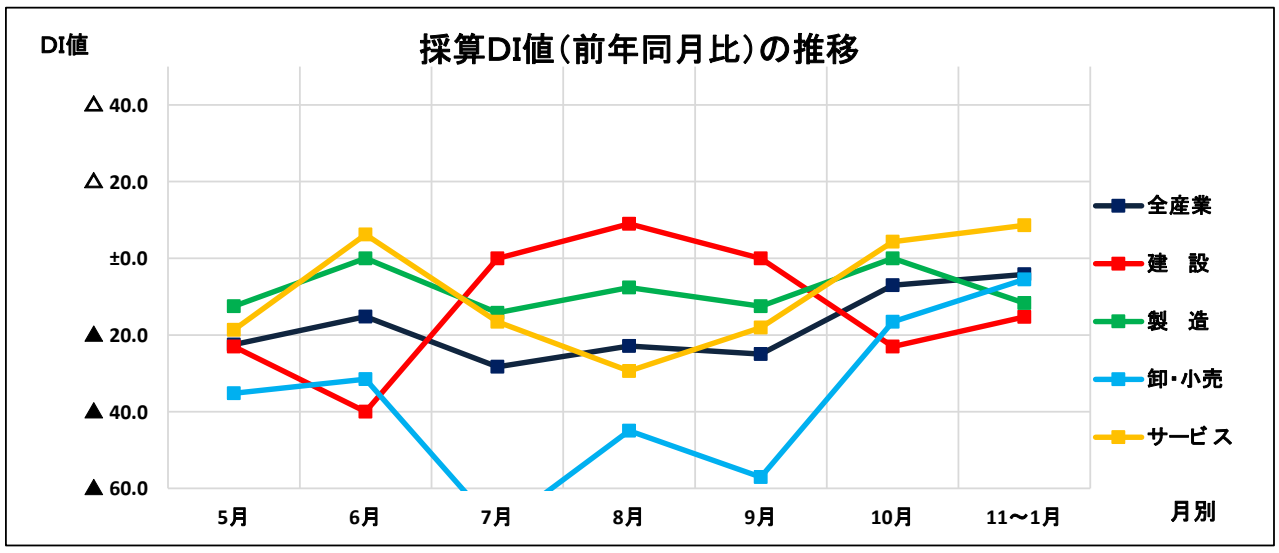
○ 10月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲７．０（前月水準▲１６．６）となり、マイナス幅が９．６ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲４．２（前月水準▲１６．６）であり、マイナス幅が１２．４ポイント縮小した。



採算ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合ー「悪化」の回答割合

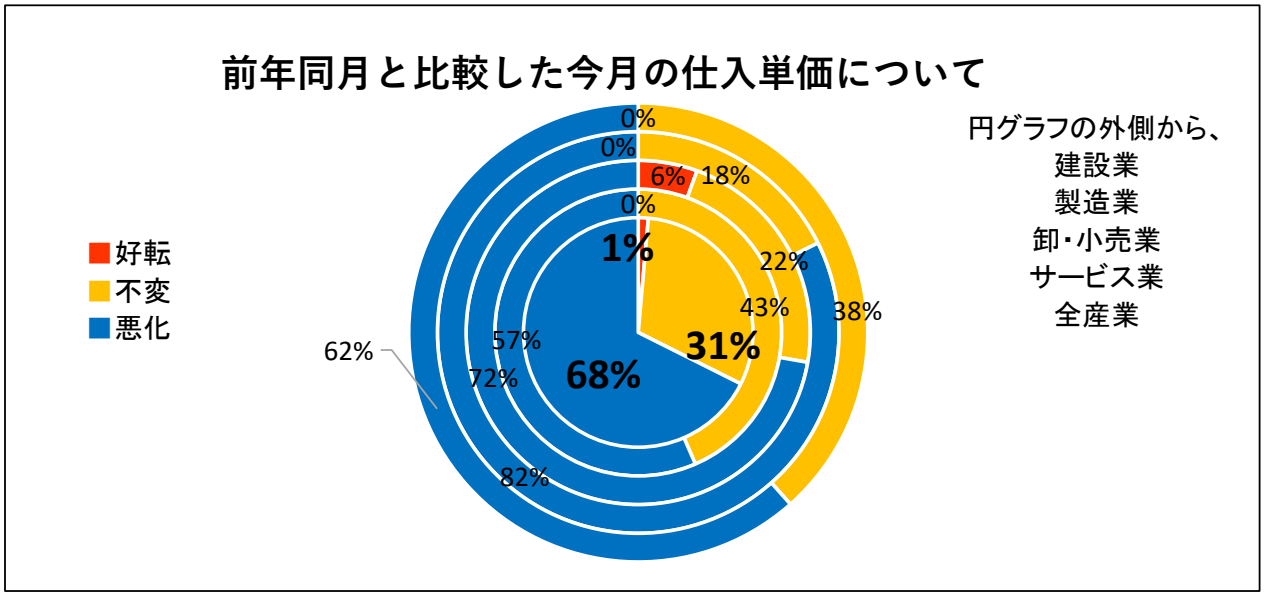
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	▲ 22.5	▲ 15.2	▲ 28.3	▲ 22.9	▲ 25.0	▲ 7.0	▲ 4.2 （ ▲ 16.6 ）
建　設	▲ 23.0	▲ 40.0	±0.0	△ 9.0	±0.0	▲ 23.0	▲ 15.3 （ △ 7.6 ）
製　造	▲ 12.5	±0.0	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 12.5	±0.0	▲ 11.7 （ ▲ 25.0 ）
卸・小売	▲ 35.2	▲ 31.5	▲ 70.5	▲ 45.0	▲ 57.1	▲ 16.6	▲ 5.5 （ ▲ 33.3 ）
サービス	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 18.1	△ 4.3	△ 8.6 （ ▲ 9.0 ）



【仕入単価について】

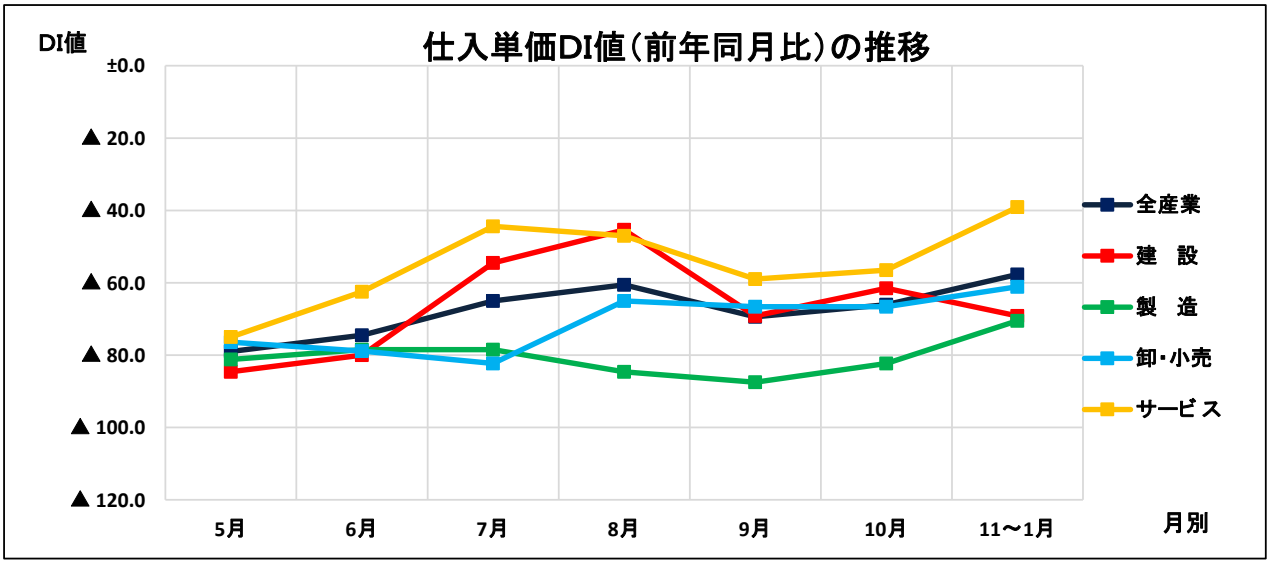
○10月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲６６．１（前月水準▲６９．４）となり、マイナス幅３．３ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲５７．７（前月水準▲５６．９）となり、マイナス幅が０．８ポイント拡大した。



仕入単価ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

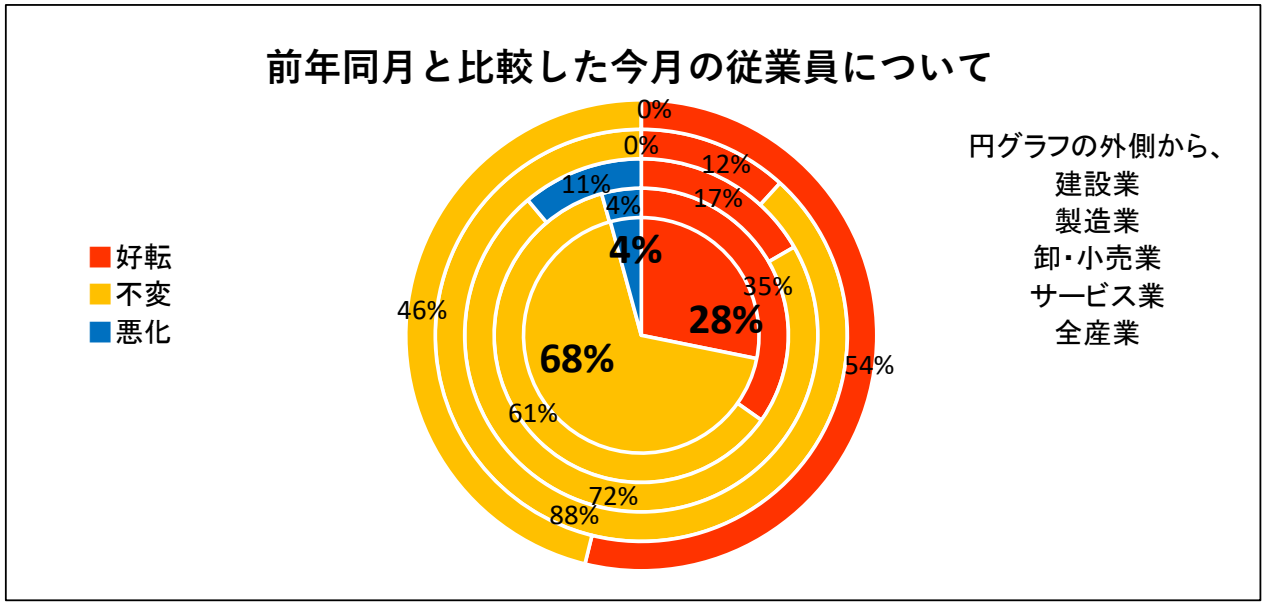
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	▲ 79.0	▲ 74.5	▲ 65.0	▲ 60.6	▲ 69.4	▲ 66.1	▲ 57.7 （ ▲ 56.9 ）
建　設	▲ 84.6	▲ 80.0	▲ 54.5	▲ 45.4	▲ 69.2	▲ 61.5	▲ 69.2 （ ▲ 69.2 ）
製　造	▲ 81.2	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 84.6	▲ 87.5	▲ 82.3	▲ 70.5 （ ▲ 81.2 ）
卸・小売	▲ 76.4	▲ 78.9	▲ 82.3	▲ 65.0	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 61.1 （ ▲ 42.8 ）
サービス	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 44.4	▲ 47.0	▲ 59.0	▲ 56.5	▲ 39.1 （ ▲ 45.4 ）



【従業員について】

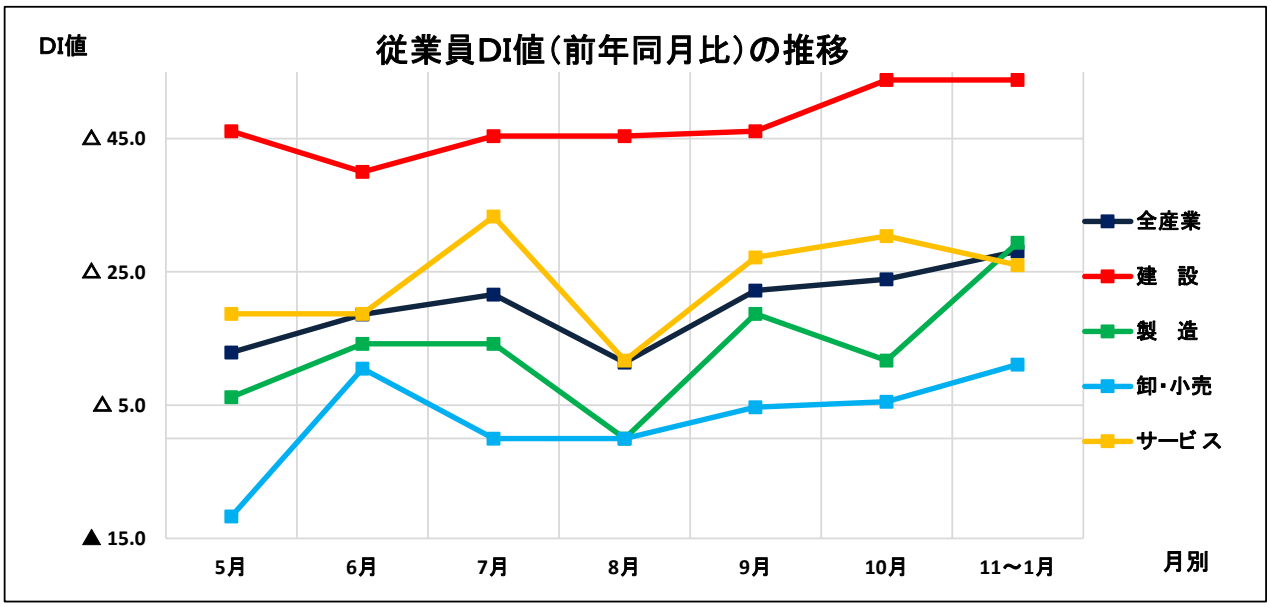
○10月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△２３．９（前月水準△２２．２）となり、プラス幅が１．７ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、△２８．１（前月水準△２７．７）となり、プラス幅０．４ポイント拡大した。



従業員ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「過剰」の回答割合－「不足」の回答割合

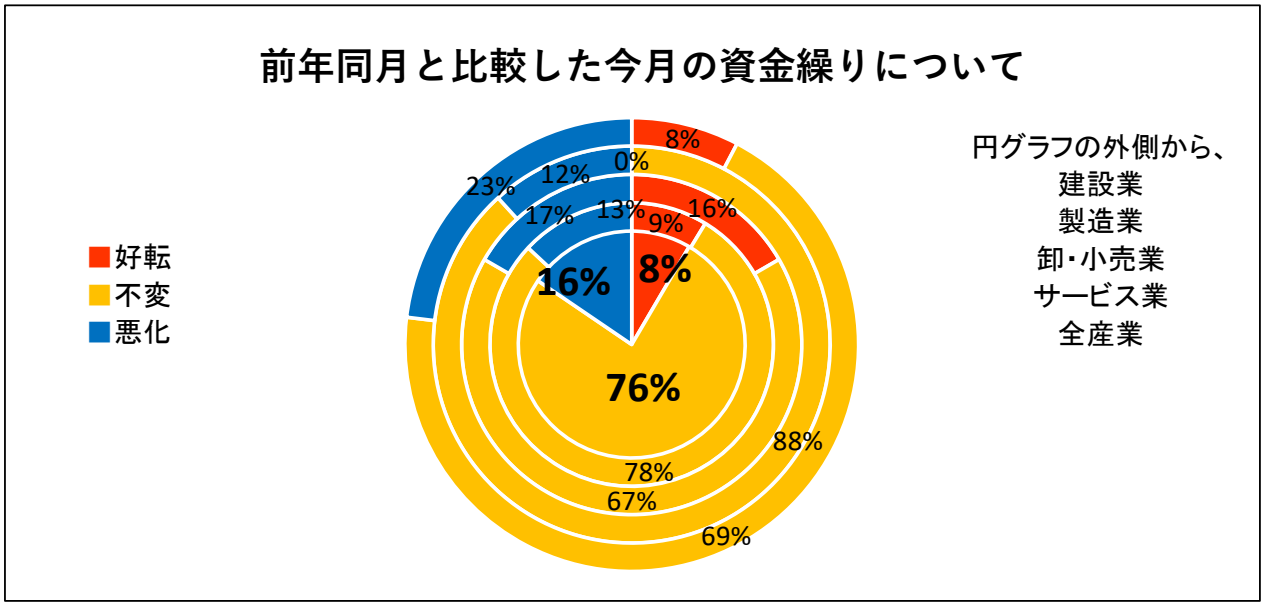
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	△ 12.9	△ 18.6	△ 21.6	△ 11.4	△ 22.2	△ 23.9	△ 28.1 （ △ 27.7 ）
建　設	△ 46.1	△ 40.0	△ 45.4	△ 45.4	△ 46.1	△ 53.8	△ 53.8 （ △ 46.1 ）
製　造	△ 6.2	△ 14.2	△ 14.2	±0.0	△ 18.7	△ 11.7	△ 29.4 （ △ 25.0 ）
卸・小売	▲ 11.7	△ 10.5	±0.0	±0.0	△ 4.7	△ 5.5	△ 11.1 （ △ 9.5 ）
サービス	△ 18.7	△ 18.7	△ 33.3	△ 11.7	△ 27.2	△ 30.4	△ 26.0 （ △ 36.3 ）



【資金繰りについて】

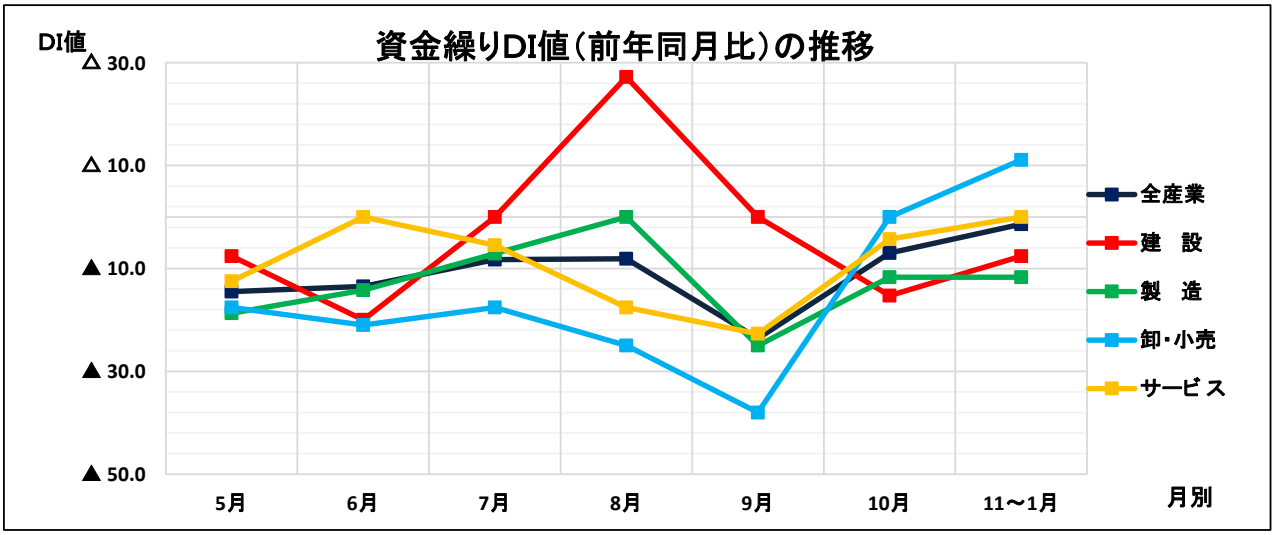
○10月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲７．０（前月水準▲２３．６）となり、マイナス幅が１６．６ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（11月から月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１．４（前月水準▲１１．１）となり、マイナス幅が９．７ポイント縮小した。



資金繰りＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

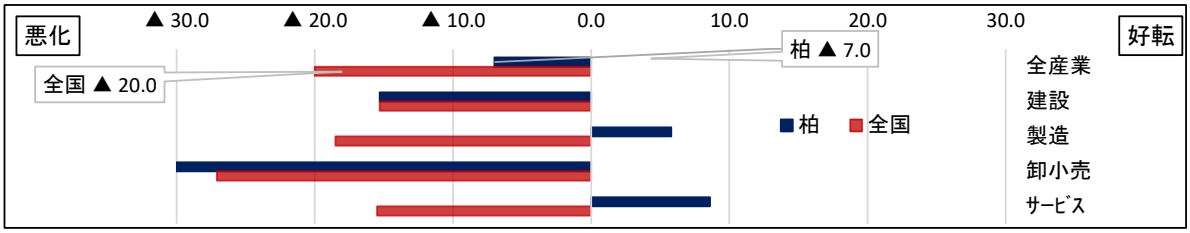
	令和8年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月 （ 10～12月 ）
全産業	▲ 14.5	▲ 13.5	▲ 8.3	▲ 8.1	▲ 23.6	▲ 7.0	▲ 1.4 （ ▲ 11.1 ）
建　設	▲ 7.6	▲ 20.0	±0.0	△ 27.2	±0.0	▲ 15.3	▲ 7.6 （ △ 7.6 ）
製　造	▲ 18.7	▲ 14.2	▲ 7.1	±0.0	▲ 25.0	▲ 11.7	▲ 11.7 （ ▲ 25.0 ）
卸・小売	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 38.0	±0.0	△ 11.1 （ ▲ 14.2 ）
サービス	▲ 12.5	±0.0	▲ 5.5	▲ 17.6	▲ 22.7	▲ 4.3	±0.0 （ ▲ 9.0 ）



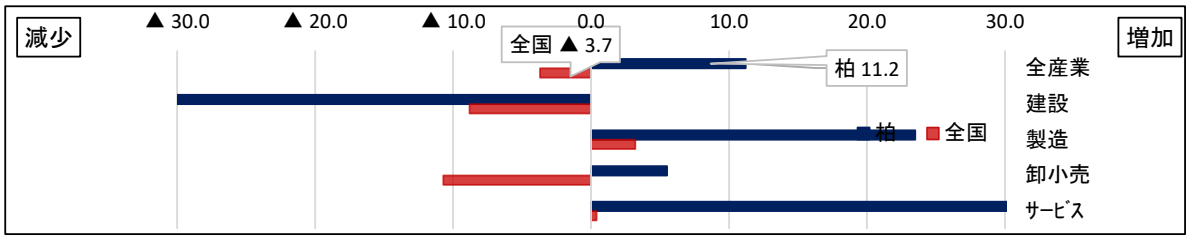
全国（ＣＣＩ－ＬＯＢＯ）との比較

【CCI－LOBOとは】
日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

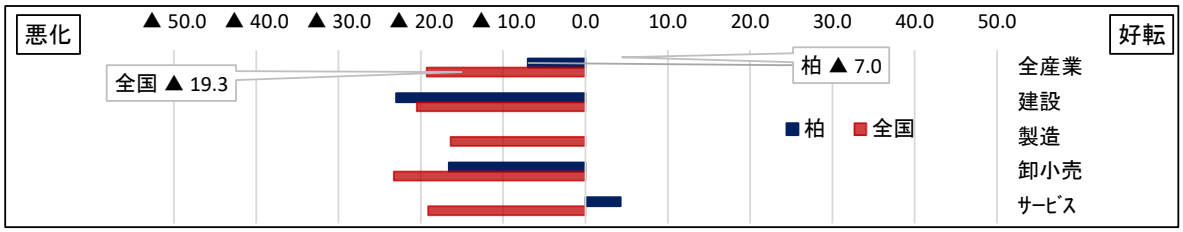
【業況ＤＩ】



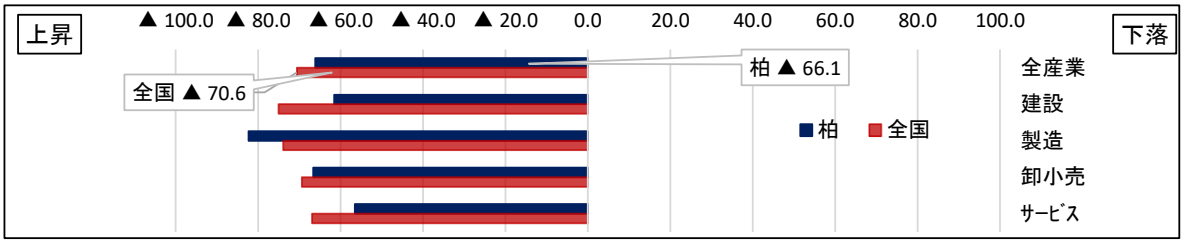
【売上ＤＩ】



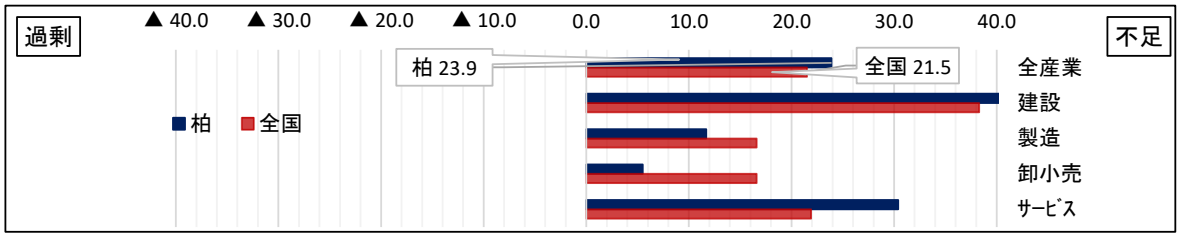
【採算ＤＩ】



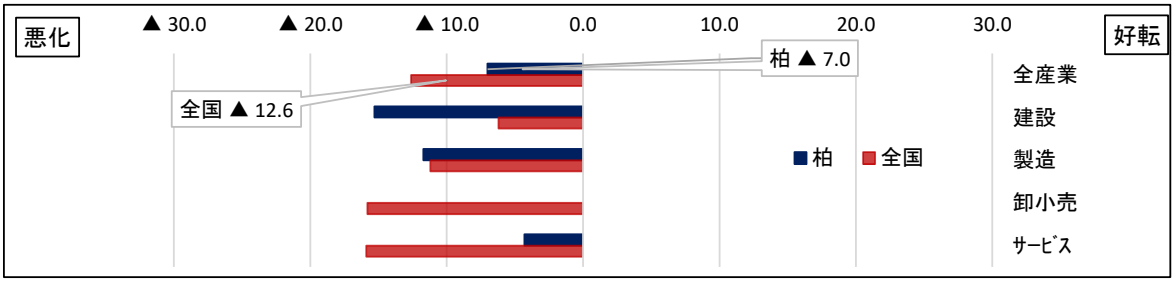
【仕入単価ＤＩ】



【従業員ＤＩ】



【資金繰りＤＩ】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概　　況	業種
建設業	建設業界の倒産が多くなっているかもしれな（取り引き先が倒産した）	外壁工事
	エネルギー価格等のコスト増は、認められるが、弊社では顕著ではないため、価格転嫁は実施できないが、セキュリティー対策への投資によるコスト増が懸念される。	地質調査・地質コンサルタント
	10月は雨が多く、外注工事の工程が遅れが生じ、他の工事の工期にも影響が及んでいる。 金利上昇の影響があると考えられるが、新築住宅に関する問い合わせが減少しているように感じる。 建設業全体的に20～30代の若年層からの求人応募が少なくなっている。	総合工事業
製造業	相次ぐ原材料の値上げの影響により、価格転換できていない	食料品製造業
	医療品容器関連は新企画決定したりで活気があるが相変わらず化粧品容器関連の動きが鈍い、なのでいまいち波に乗れない	プラスチック加工
	10/1酒税法改正に伴う生産計画への影響が多少ある。	酒類製造業
	今月より材料メーカーから紙の値上げが行われた。来年貼るにも更なる値上げの要請があるがある状況。コスト増に対して多少なりとも転換しているが十分では無い。 今後価格転嫁交渉において取引先との良好な関係性が必要。	印刷業
卸・小売業	物価が上がっている中で、米価は下がっている状況。 昨年が異常に高かった影響と7年産米のスーパーなどでの安売り競争が激化… そのため、今まで利用してくださっていた個人消費者や飲食店さんが離れて行ってしまっている。 そして、8年産（新米）の仕入価格の方が安いという状況がおきていて、7年産が残っている状況で中間業者は8年産の流通を控えている。	飲食料品小売業
	10月に入り天候も安定し週末の集客力も回復傾向であるが、まだ厳しい。 ヘルス＆ウェルネスはインフルエンザ流行の影響で処方箋枚数は増加し、一般市販薬も堅調に推移しており好調。 衣料品と住居余暇関連は、最低気温が下がりきっていないが、秋物冬物に動きがありなんとか持ちこたえている。 問題は食料品で買い控えが激しい。仕入れ原価上昇が継続しており一点単価の上昇の影響は、客数ではなく点数の落ち込みに現れている。 テレビでは葉物野菜が産地切替えの影響が長引き相場が異常に高いと報道されており、野菜が打撃を受けている中で秋の果物も苦戦が続いている。 秋の秋刀魚も不良により水産品が影響をうける中、畜産品が好調であり豚肉から鶏肉にシフトしている現状は、やはり買い控えの影響である。 その他、米（米騒動の裏年）、菓子、スィーツなども影響を受けており、クリスマス及び年末年始への影響は必至である。	大型小売店

【業種別】業界内トピックス

	1　半導体の値上げが対前年比3600%という想定をはるかに上回る状態になり、今後の経営戦略の見直しが必要な水準 2　仕入れ単価の上昇と納期遅延が続き見積書の出し直しだけでも手間になっている 3　人手不足は恒常化し改善の可能性も現段階では低い。 高齢化も進み、業務のAI化の加速が必須 4　昨今の多発する情報流出問題での対策が急務！　社内に社内で個人情報を保持しない方向に舵を切らざる負えない	書籍・文房具小売業
	長雨だった9月より少々持ち直したが、仕入れ値にこれから影響が出るのかどうか心配。	その他の各種商品小売業
サービス業	家賃更新時の値上げを、お願いしなければならないほど物価高だが、インフレを経験している年齢なので正常とも感じてる。	不動産賃貸・管理業
	適正な人員補充が難航し、作業効率が落ちている状況です。	その他の技術サービス業
	金利の上昇と資材の高騰や外注費の上昇等の影響で仕入れ単価が上がっている。 一般消費者も購買意欲が減少しており、直近2～3年間で販売価格が上がっている影響もあり、財布事情も厳しくなっている感じる。	不動産管理業
	特にございません。	一般貨物自動車運送業
	コーヒーに興味をもっている人が増加している。柏の葉においては飲食店の需要と 供給のバランスが取れているように感じる。	バー，キャバレー，ナイトクラブ

調査要領

回答期間　令和８年１０月２０日　～　令和８年１１月３日

調査対象　柏市内１７３事業所及び組合にヒアリング

＜業種別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全　産　業	173	71	41.0%
建　　設	38	13	34.2%
製　　造	44	17	38.6%
卸　・　小売	46	18	39.1%
サ　ー　ビ　ス	45	23	51.1%

調査方法と調査票

下記「質問Ａ」をＤＩ値集計し、「質問Ｂ」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問Ａ

質問事項	回答欄 前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問Ｂ 業界内のトピック（記述式）

※ＤＩ値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ　＝　（増加・好転などの回答割合）　－　（減少・悪化などの回答割合）

※ＤＩ値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				